平成２７年度の研究を振り返って

会　長　篠原　敦子

最近の学校は、ともかく「忙しい」という声が飛び交っています。職員室で、黙々とパソコンに向かって仕事をしている先生。忙しく、動き回っている先生。・・・のんびりと、今日の授業の子供の反応を語り合うような雰囲気は、見られません。一番、大切な話題ですよね。先生方は、校務をいかに早く終わらせるかを考え、寸暇を惜しんで仕事をしています。

研究会に行っても、若い人の姿が見られません。出張自体が難しくなってきている実態が見られます。なかなか子供をおいて出かけることができない。会議等で、やりくりがつかない。管理職が許可してくれない。等々・・・これまた、良い授業を数多く見ることが、授業力向上の近道だと思うのに・・・

ぼやきばかりになってしまいましたが、多かれ少なかれ、どこも同じような状況だと推察します。そのような状況の中、国語教育科学研究会（以下、国科研と表記）は、土曜日の午後、月１回、高輪台小学校に集まって、授業力向上のために、よりよい授業を求めて研究を進めています。集まってこられる先生方には、頭が下がる思いです。（手前味噌でごめんなさい。）教員として、誰でも、授業がうまくなりたいという思いはもっています。そのための努力もしています。何にもまして、仲間と子供のこと、授業のことを話し合うことは楽しいものです。国科研では、まさに、その至福の時間が味わえます。

第８回国語教室に参加してくださった先生から、一緒に研究をと考えてくださる方がいらっしゃいました。まずは、誌友からとのことですが、仲間が増えることは嬉しいものです。これも、今回の成果の一つでした。

当日は、会員 14 名と外部からの参加者 5 名で国語の指導について話し合いました。高野先生による、オリエンテーリング、そして、藤井先生による基調講演と、始めに、理論編をしっかりと勉強し、その後、実践発表や模擬授業と、中身の濃い話し合いでした。

山口先生は、要点と細部の関係をしっかりと押さえ、それが分かったうえで、説明の工夫について考えさせた授業の提案でした。実際の子供の書いたワークシートを読むと、教師の意図した内容をきちんと読み取れていることが分かります。

前田先生は、会場にいらした先生方を子供に見立てての模擬授業を行いました。筆者が伝えたいことは何か。それに対して自分はどう考えるかというめあてで学習を進めました。

最後は、油先生の実践報告でした。感想をもつ指導を行いました。教材で学習して身に付けた技能を生かして、自分で選んだ本についても挑戦していくという、習得と活用をセットにした指導でした。時間的な課題は残りましたが、学習した力を、すぐに生かすことができるという点では、効果があったと思います。

最後に、能瀬先生から、今回の国語教室の最大の成果は、「十日間で学べる「機能的国語教育基礎講座」機能的国語教育の新展開」の発行だ。とまとめがありました。本当に、会員全員で力を合わせて、データ化し、細かい校正を繰り返し、発行まできました。担当された先生方、本当にありがとうございました。そして、この本を改めて読み返し、研究を重ねていきたいと思います。

平成２７年度　国語教育科学研究会　研究の概要

研究推進　青木　勉

１　研究主題　　「主体的・協働的な国語学習の展開」

当初「課題の発見・解決に向けて主体的・協動的に学ぶ国語科学習の充実」を研究主題とした。研究の視点として、①本時の学習過程全体②課題を立てる過程③自らの考えをもつ過程④グループや全体で話し合う過程⑤学習を振り返って自己評価する場面⑥三層構造の年間学習指導計画などを考えた。まずは、授業者自身の課題状況によって、研究の視点を明らかにして取り組んでいくこととした。なお、研究主題の文言には修正の余地を残しておいた。研究授業開始に当たって、研究主題を上記のように「主体的・協働的な国語科学習の展開」と設定した。

２研究日程

４月２５日（土）研究主題、運営、年間計画、港区立高輪台小学校
５月　９日（土）指導案検討・高輪台小・午後２時
６月１６日（火）前田先生授業研究『森林の働きと健康』（教出６年）下鎌田西小
６月２０日（土）研究協議会・高輪台小・午後２時
７月１８日（土）指導案検討・高輪台小・午後２時
８月２２日（土）指導案検討・高輪台小・午後２時
９月２６日（土）指導案検討・高輪台小・午後２時
１０月１０日（土）指導案検討・高輪台小・午後２時
１０月２１日（水）絲川先生授業研究『要約のシミュレーション』（４年）清瀬第十小
１０月２６日（月）山口先生授業研究『すがたをかえる大豆』（３年）武蔵野.関前南小
１０月３１日（土）研究協議会・高輪台小･午後２時
１１月　３日（火）基礎講座編集委員会・高輪台小･午前１０時
１１月１２日（木）前田先生授業研究『ぼくの世界きみの世界』（教出６年）下鎌田小
１１月２６日（木）油先生研究授業『プラタナスの木』（光村４年）港区立御田小学校
１１月２８日（土）研究協議会・国語教室準備・研究内容整理・高輪台小・午後２時
１２月１６日（水）椎橋先生授業研究『和語漢語外来語』（教出５年）台東・富士小
１２月１９日（土）国語教室資料原稿･口頭原稿・ＨＰ等検討・高輪台小・午後２時
１月２３日（土）国語教室リハーサル・高輪台小・午前９時３０分
１月３０日（土）国語教室資料印刷製本・高輪台小・午後２時
２月　６日（土）　第８回国語教室・高輪台小学校・午後１時開始
３月１９日（土）成果と課題・次年度の方向・研究紀要編集・高輪台小・午後２時

＊ 研究授業の場合は、授業者の学校の都合に合わせて日時を決める。
＊ 土曜公開授業の中で授業を実施するなどの工夫をする。
＊ 予定の変更は、会報または葉書で連絡する。

３研究組織

名誉顧問　　岸源三先生　　（会の研究･運営全般について相談助言する。）
会　長　　篠原　敦子　　（会の運営の総括として活動する。会報企画。）
副会長　　藤井　英子　菱田　敏和（会長の補佐として会の運営・研究の推進に参与する。会報の参画。）
研究推進　　青木　　勉　　野沢一代（資料提供・整理・まとめ、会報の発行。）
研究推進委員　　田中耕一郎(指導)　　前田　修郎　　油　史枝　　絲川佐知子
井波　玲子　菊池　智子　山口　達郎　椎橋あゆみ　斉藤　智子
福森　真裕　品木　貴也
庶　務　　長谷川　清　　能瀬外喜雄　　高野　厚夫
（研究紀要編集・企画。名簿作成管理　会案内・会報発送。）
会　計　　永田　清子　　菊池　智子　（会費管理。会費徴収。会費の支出の総括。）
HP 担当　　中澤　敬彦　　（ＨＰ編集　管理）

４運営について

１　基本理念　機能的国語教育の理論と実践について研究と普及に努める。
２　活動の方針　次のような会を原則第三土曜日の午後に計画的に開いていく。
（１）授業研究・研究協議会
○豊かな人間性の伸長と開発のための機能的国語教育の進展のため、国語科授業を構成する全てを対象にして研究を深め、授業の質の総合的な向上を目指す。
（２）実践懇話会
○国語教育の研究、実践を発表し合い、問題点を明らかにして授業のあり方を自由に話し合う。また、国語教育にかかわる情報を交換し合い、今後の国語教育の進展について話し合う。
（３）国語教室
○実践報告の形式で本会の理論とその展開のあり方を発表し意見を聞き研究の深化を図る。
○「国語教室」を開き会員相互の共通の理解を深めるとともに研究内容を整理する。
（４）研究紀要の発行
○一年間の研究成果をまとめ「国語教育科学」として発行する。

５その他

（１）運営費については、年間２千円を徴収し連絡費等に当てる。
（２）会報を毎月発刊する。(案内も載せる)
（３）外部にも会の開催について知らせる。会員外の参加も促進する。
（４）HP に会の動きや国語教室の案内を掲載する。(人権に注意する)

６事務局

港区立高輪台小学校　校長　篠原敦子　〒108-0074　港区立高輪２―８―２４
℡5447-5336　Fax5447-5335

研究主題について

（1）教育への課題

○グローバル化、技術革新、高度情報化、膨大な情報。変化の激しい時代を心豊かにたくましく生き抜く力の育成。

○こういう環境の中で自ら課題を発見し、具体的に課題として設定し、課題解決する力を育てる。

○課題解決に当たって自らに考えるとともに、他者との対話・協働・チームワークがなくてはならない。

○一人で頑張っても意欲は高まらない。多くの考えと触れ、意欲的、主体的に課題について深く考えることが必要。

○求められている能力は、自分の個性を生かして課題を解決しようとする力と他者と協働し解決する力である。

○発達段階に応じて、身に付けさせたい力を明確にし、その力を育成のための指導を展開する。

○国語科は、言語活動を通して、言語のもつ機能によって思考力、想像力、伝える力を伸ばし、人間性の開発伸長を目指す教科である。道具ではない。

（2）育てたい児童像

「課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ児童」

（3）研究主題

「主体的・協働的な国語科学習の展開」

（4）研究の対象について

学習課題の発見・解決に向けて主体的・協動的に学ぶ国語科学習の充実を目指す。そのための研究の対象として、次のような視点が考えられる。

① 本時の学習過程
② 課題を立てる過程
③ 自らの考えをもつ過程(自己学習)
④ グループや全体で話し合う過程(共同学習)
⑤ 学習を振り返り自己評価する過程
⑥ 三層構造の年間学習指導計画

特に、「自らの考えをもつ」ということを指導しなければ、話し合いの充実、付けたい力の定着は期待できない。第一に、ここに重点が置かれるべきであろうか。まずは、授業者自身の課題状況によって、研究の視点を明らかにして取り組んでいくこととする。

（5）研究の視点

「学習する必要感をもち、自らの考えをもち、他者とかかわりあいながら、考えを広げたり深めたりする学習が、課題を発見し解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ児童を育てる」と、仮定すると次のような視点からも授業を見ていかなくてはならない。

1　学習に必要感をもたせられたか
① 動機付け～目的、意欲、課題発見
② 課題設定～課題状況、課題分析
2　自分の考えをもたせられたか
① 考え方～学習方法
② 自分の力で学習～個人差への支援～言語活動～育てたい技能
3　他者とのかかわりあいはできたか
① 目的
② 形態、手順
③ 表出、交換、集約
④ 形成的評価のための評価基準
4　考えを広げたり深めたりできたか
① 自分の考えの再構築
・ 自己評価しKRを自覚する
・ 評価調節する(フィードバック)
② 振り返り
・ 課題にかえる～課題達成の確かめ
・ 学習方法を振り返る～学び方を学ぶ

（6）アクティブラーニングの視点に立った学びを推進する
○アクティブラーニングの視点による学習･指導方法の改善を図る
○「課題の発見･解決に向けた主体的･協働的な学び」がキーワード。
○課題の発見･解決に向けた主体的･協働的な学びのある学習プロセス
例1　深い学びのある学習プロセス
例2　対話的な学びのある学習プロセス
例3　主体的な学びのある学習プロセス

（7）育てたい児童像を豊かにもつ
レジリエンス (resilience)
･これからの時代を「豊かにたくましく生きる力」を身に付けさせたい。
･あらゆる不測の事態や環境の変化に備えるべき力とは何か考えたい。
・未来に対して肯定的に向き合う
・感情の調節を適切に行う
・興味関心の対象を多様にもつ

国語教育科学研究会が培ってきた 1 単位時間の学習過程をふまえて研究を深めていく。東京都教育委員会が昨年 2 月に都内全教員に示した「主体的・協働的に学ぶ学習指導」の学習過程は、本研究会と同様の考え方に立つ学習過程である。自負と責任をもって、この学習過程に沿って実践的に研究し学習指導を工夫改善していきたい。

１単位時間の指導過程について

東京都教育職員研修センターは、平成２７年２月に「新たな学びを支える教科等指導の工夫」という指導資料を都内の全先生方に配布した。これは、主体的・協働的な学習（アクティブ・ラーニング）を意識したものである。その資料で「人間関係を築く力を高めるための学習過程例」として、言語活動や協働的な学習活動を次のような学習過程の中に位置付けている。

課題を把握する
→自分の考えをもつ
→協働的な学習活動
→自分の考えを再構築する
→自己の変容などを振り返る
→問題を解決する

この学習過程に基づいて、各過程で心掛けておくべきことを記しておきたい。

課題を把握する

・課題状況を理解させる。必要性など。
・課題分析する。
・学習方法を考えさせる。
・学習方法は見えるように掲示する。
・考え方や感想のもち方を考えさせる。

自分の考えをもつ

・課題に沿って自分の力で学習する。
・読んだり書いたりカードを操作したり静かに集中して学習する。
・個人差に応じた学習シートを用意して全員の学習を成立させる。
・個の学習が成立するように学習時間や場の保障をする。
・机間指導する。

協働的な学習をする

① 学習の仕方が合っていたか確かめ合う。（例えば、ペアで）
② どのような考えか、どのような学習結果か、互いに発表し合う。（例えば、グループで話し合う。）
③ 何人かの児童の例を取り上げて、みんなで検討する。（例えば、全体で話し合う）
　・言葉の学習をする。
　・本文にもどる。
　・ＩＣＴ，拡大機等で見える化する。
④ どのようなことに気を付けて学習すればよかったのか、どんな言葉を手がかりにしてどうのように考えればよかったのか、ポイントをつかむ。

⑤ 評価基準を理解する。

・どう読めばいいか、どのように書けばいいか、読み方書き方が、評価基準になる。

・見本法や選択法や条件法で評価基準を立てるがよく理解させる。

自分の考えを再構築する

・個にもどり、評価基準を基にして自己評価する。

・自分の学習状況を理解する。

（メタ認知、ＫＲの自覚）

・どんなことに気を付けて学習すればよかったのか理解する。（調節条件）

・調節条件に従って、読んだり書いたり組み立てたりする。

（調節学習、フィードバック）

自己の変容を振り返る

・学習課題に返る。

・学習方法も振り返る。

・振り返りを書く。

・本時の学習の仕方とその結果を振り返り、自己の変容を知る。

問題を解決する

・課題が達成されたことを確かめ、学び方を学ぶ。

・達成感を抱かせる。

・全文をゆっくり味わって読む。

・学習ノートを整理する。

・次時の課題や意欲につなぐ。

以上、都教委の示した指導過程に沿って考察してみると、アクティブラーニングは、私ども国語教育科学研究会が研究してきた学習過程を基にして研究を深めていくべきであるという結論にたどりつく。国語教育科学研究会の学習過程は次のようである。

1 課題　学習課題をつかむ
2 方法　学習方法を考える
3 自己学習　学習方法に従って自己学習する
4 共同学習　学習結果をもとに共同学習する
5 評価　評価基準を明らかにし自己評価する
8 調節　評価の結果を自覚し調節学習をする
9 総括　学習のまとめをする
10 達成　学習課題を達成する

ここで言う共同学習は、学習過程上のやや意味の狭い言葉である。協働学習は、教育理念的に使われている大きな意味の言葉である。研究に当たっては、授業者の課題を生かし、授業の視点を立てて進めていきたい。